

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

～ 情報化、グローバル化に対応し、国内外で社会貢献できる人物を育てる学校をめざす ～

1. 生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することをめざすとともに、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育む
2. 多文化理解教育を一層推進し、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力に加えて世界の国の文化や伝統を理解し尊重する態度を身につけることで、文化が異なる人々と協働して社会の諸問題の解決に向けて積極的に行動する人物を育てる
3. 豊かな心や社会人基礎力を育成する

2 中期的目標

1 確かな学力の育成【授業力】

- (1) 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点に基づき育成する
 - ア 生徒にめざす資質・能力を育むために「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で、授業改善を進める
 - イ 各教科等において通常行われている学習活動（言語活動、観察・実験、問題解決的な学習など）の質を向上させる
 - ウ 単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見直し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、生徒が考える場面と教師が教える場面とをどのように組み立てるかを考え、実現を図っていく
 - エ 生徒が学習において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにするために、教師が専門性を発揮する
 - オ ICT等を活用して学習活動等を充実する
 - ※ 学校教育自己診断「授業はわかりやすい」の肯定的回答を令和4年度60%となることを目標とする(H29:49.6%, H30:57.9%, R01:59.0%)
 - ※ 授業アンケート「授業内容に、興味・関心をもつことができた」の肯定的回答を令和4年度も80%台を維持することを目標とする(H29:74.3%, H30:80.5%, R01:80.5%)
 - ※ 授業アンケート「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」についての肯定的回答を令和4年度も80%台を維持することを目標とする(H29:77.7%, H30:82.5%, R01:83.7%)
 - ※ 英語検定準2級相当以上の合格者合計が令和4年度180名となることを目標とする(H29:163名, H30:150名, R01:212名)
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させる。また、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育む
- (3) 個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努める。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮する
 - ※ 大学入学共通テスト（新テスト）に向けて記述式問題への対応、英語4技能評価にかかる民間の資格・検定試験の活用を図る
 - ※ 国公立大学及び難関私立大学（関関同立・産近甲龍・関西/京都外大）の現役のべ合格者数が令和4年度には200名となることを目標とする(H29:146名, H30:166名, R01:136名)

2 豊かな心・社会人基礎力の育成【自律・自己実現】

- (1) 体験活動や、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養をめざした教育の充実に努める
 - ア 総合的な学習の時間、総合的な探究の時間やHRを活用し、生徒の生きる力の醸成を図る
 - イ 部活動や有志の地域行事への参加等を通して、ボランティア活動への意識を高める
- (2) 豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、社会の発展に努め、他の国や文化を尊重し、未来を拓く主体性のある人物の育成に努める
 - ア 普通科、国際教養科の両科とも国際感覚を醸成すべく、校内国際交流、海外語学研修や留学生受入れ等に取り組むとともに日本文化への理解を深める
 - イ 学校行事、国際関連行事、語学研修や部活動を通じ、社会人基礎力「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を育成する。また、生徒が夢や志を持って自身の可能性を伸ばし、よりよく社会に参画する態度を育む
 - ウ 生徒が自己探求と自己実現に努め、社会の一員としての自覚に基づき行動しうる発達の段階にあることから、人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる社会性を養う
 - エ 集団活動に積極的に取り組む機会と環境を提供し、自他の違いを認め、協調し、「協調友愛（校訓）」の精神を培い、他者と望ましい人間関係を構築できる人間性を育む
- (3) 学校の教育活動全体を通じて、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、集団の規範を遵守し、多様な価値観を認めながら、他者と協調して活動することのできる規範意識を育む
 - ア 自分自身で考えて行動し、自らを律することのできる「自主自律（校訓）」の精神を醸成する
 - イ 学校における生活指導は学校全体で組織的かつ丁寧に行う
 - ※ 頭髪、服装の乱れ、不注意による遅刻がないように指導を継続する 遅刻について、令和4年度1500件程度に減ずることを目標とする(H29:3148件, H30:3067件, R01:2857件)
 - ※ 部活動加入率（3学年平均）が令和4年度には70%になることを目標とする。(H29:66.8%, H30:66.5%, R01:69.7%)
- (4) 安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動に結び付けるようにする。

3 学校の特色づくりと組織力の向上【学校運営】

- (1) 学習活動、学校行事、部活動などの教育活動に関する教職員の共通理解を深め、「よりよい旭」に向けてチーム学校として、目標を持って邁進できる組織を構築する
 - ア 将来構想委員会を核として、「これからの旭」の課題解決を図るとともに、教職員が常に「改善」の意識を持ち、PDCAによる学校改革、授業改善に更に一丸となって取り組むよう努める
 - イ 「大阪府立高等学校再編整備計画（2019年度から2023年度）」に基づき、これまでの取組みを発展・深化するように検討する
 - ウ 運営会議、職員会議などの充実を図り、教職員間の意思の疎通を図る。よりよい校務分担体制を確立し、学校運営を円滑に行う
- (2) 校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する
 - ア ICTの有効活用を図り、教職員間メールや掲示板を活用し、校務分担などの事務的作業の簡略化、校務の効率化に繋げる。また、授業準備の共有化を図るなど授業改善にも努める さらに、経費削減の意識を持って教職員間で使用するペーパーの削減をめざす
 - イ 学校休業日や部活動休養日の設定などに取組み、生徒、教職員が心身ともに健全であるように努める
- (3) 学校の特色の共通認識と広報活動の充実を図る
 - ア ホームページやパンフレット等を充実させて情報発信することにより広く学校を理解してもらえるように努める
 - イ 招致される進学説明会等の参加への改善を図るとともに、教員による中学校訪問、学校主催のオープンスクールの見直しを行う
 - ※ 高校入試の応募状況等から招致される進学説明会への参加や本校教員の中学訪問を検討する。オープンスクールは年3回開催し、中学生、保護者の申込者数を併せて、毎回定員を超えることを目標とする

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和2年11月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>□肯定的回答（よくあてはまる、ややあてはまる）の割合 今年%（昨年%）</p> <p>●確かな学力の育成</p> <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業はわかりやすい。 66.6%（59.0%） ・授業で分からないことについて先生に質問しやすい。68.0%（64.8%） <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは授業が分かりやすく興味深いと言っている。 41.3%（40.0%） <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の精選・工夫を行っている。 86.4%（79.6%） ・学習指導の方法や内容について工夫している。 84.1%（81.5%） <p>【分析】</p> <p>生徒に対する質問で「授業が分かりやすい」については、前年度から7.6ポイント、「授業で分からないことについて先生に質問しやすい」は3.2ポイント上昇した。しかし、依然として十分に高い数字ではない。学校の課題の一つと考え授業力向上をめざしたい。授業アンケートでは81.7%の生徒が授業に興味関心を持ち、知識や技能が身についたと感じているという肯定的な評価があった。</p> <p>また、教職員への質問では「教材の精選・工夫を行っている」が6.8ポイント、「学習指導の方法や内容について工夫している」は2.6ポイント上昇している。指導の工夫についても教職員の意識が高まっていると考えているが、保護者にまで、生徒の感想がし届くように学校の課題と考えていきたい。</p> <p>●学校生活全般</p> <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に行くのが楽しい 80.7%（77.9%） ・将来の進路や生き方について考える機会がある 88.5%（84.5%） ・先生はいじめ等困っていることに真剣に対応してくれる 61.4%（59.4%） ・担任の先生以外にも、気軽に相談することができる先生がいる 59.6%（63.5%） <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは学校に行くのを楽しみにしている 79.3%（80.5%） ・将来の進路や生き方について適切な指導を行っている 67.5%（68.4%） ・学校の生徒指導の方針に共感できる 64.8%（65.3%） <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員は生徒の意見をよく聞いている 77.3%（74.1%） ・生徒の問題行動が起こったとき組織的に対応できる 81.8%（64.8%） ・生徒はクラス担任以外の教職員とも相談できる 84.1%（70.4%） <p>【分析】</p> <p>今年度は大幅に行事予定を変更せざるを得ない事態となり、行事についても十分に実施できなかったにもかかわらず、生徒質問「学校に行くのが楽しい」は80.5%と前年度を上回った。保護者質問「子供は学校に行くのを楽しみにしている」は1.2ポイント下がったが、大幅に下がっても不思議ではない中、学校の教育活動に一定理解をいただき有り難いと考えている。進路指導部の保護者向けの取組みができなかったことが保護者への進路に関する質問での微減に繋がっていると考え、Webでの発信など工夫をしている。引き続き集合形式が難しくても代替の発信ができるよう考えていく必要がある。</p> <p>生徒達がいじめを教員へ相談しやすいかということについては約6割と前年度とほぼ同じで、「判断できない」と回答した生徒が28.5%であった。別途実施している「いじめアンケート」などでいじめを見逃さないよう、また教職員のアンテナをしっかりと張って見逃さないようにしていきたい。</p> <p>●学校経営・施設整備全般</p> <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室等は授業や生活がしやすいように整備されている 63.8%（59.0%） ・学校からの諸連絡を保護者に漏らさず伝えている 73.9%（69.3%） <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の施設・設備は学習環境面でほぼ満足できる 45.5%（40.9%） ・子どもは学校からの諸連絡を漏らさず伝えている 66.6%（58.0%） ・学校が家庭連絡を積極的におこなっている 76.3%（66.3%） <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営に教職員の意見が反映されている 72.7%（61.1%） ・分掌や学年間の連携が円滑に行われている 56.8%（40.7%） ・教育活動について生徒・保護者への周知に努めている 86.4%（66.7%） <p>【分析】</p> <p>施設設備の老朽化とともに教室が狭い、トイレ環境が悪いなど生徒、保護者ともに改善の要望が強い。学校の施設面については一番の懸案事項であり引き続き、できる手立てを考えて少しでも環境を整えていきたい。学校からの連絡や教員間の連携については前年度を大きく上回っているものもある。各学年から休校中もメールでメッセージを送っていることが数字で表れていると考えている。引き続き学校から保護者へとしっかりと情報発信をしていくことがたいせつだと考えている。</p>	<p>□第1回（7月13日）</p> <p>「旭高校の魅力づくりに向けて」（協議）</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）校長あいさつ （2）委員自己紹介、事務局員自己紹介 （3）今年度の学校運営目標と現状報告 （4）各分掌・各学年の取組み <ol style="list-style-type: none"> ①進路指導部 ②生活指導部 ③保健部 ④図書教養部 ⑤情報部 （5）協議（主な提言等） <ul style="list-style-type: none"> ・行事の変更について <p>やむをえないが例年5月に実施される体育祭ができていないことは、やはり残念だ。</p> <p>生徒達の声を拾えるように、何らかの達成感を味わえるような取り組みがあれば有り難い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の確保について <p>例年夏休みに進学講習が実施されているが、今年は授業があるため例年通りの講習が難しいのではないかと心配である。フォローアップをしていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校のオンライン授業について <p>大学では、リアルタイムでのオンライン授業と課題のオンラインで配信の両方がある。約8割の学生は順調に進んでいると思われるが、2割程度の学生はオンライン授業がうまく進んでいるとは言い難い感じである。高校においても、オンライン配信の授業をする場合は、分量や内容をよく吟味する必要がある。</p> <p>□第2回（9月30日）</p> <p>「旭高校の魅力づくりに向けて」（協議）</p> <ol style="list-style-type: none"> （0）授業見学、校内巡回 （1）校長あいさつ （2）委員あいさつ （3）広報活動報告（首席） （4）各分掌より（誌上報告） <ol style="list-style-type: none"> ①進路指導部 ②生活指導部 ③図書教養部 （5）協議（主な提言等） <ul style="list-style-type: none"> ・学習環境と生徒達の体調管理について <p>教室での生徒たちの様子を見ると密だなあという印象だ。平熱が高い生徒もいるが、登校の基準をもう少し明確に出してもらえればと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グーグルクラスルームについて <p>高校生は、グーグルなどはまだまだ使いこなせていない。課題を提出するように指示されたが、生徒は対応するのが難しかったようだ。これからもオンラインを使っただけの学習は続いていくと思うので、どんどん活用して教員も生徒もお互いに慣れていくことが大切になるのではないかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの視点に立てば、半ばあきらめていた遠足や修学旅行に行けることに感謝している。学校生活や行事にさまざまに制約がある中でもうまくやっつけられるように、できることを見つけ授業や行事を進める先生や生徒の姿勢に感動をした。 <p>□第3回（1月25日）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1）「令和2年度 学校経営計画及び学校評価」について <ul style="list-style-type: none"> ・「授業アンケート」「学校教育自己診断」で、生徒の肯定的な回答が昨年度よりもおおむね多く、コロナ禍の中でも学習に集中できていたと評価できる。大きな混乱なく1年を終えられよかった。 ・コロナ感染者が出た時も、適切な情報を保護者伝達メールで流してもらい安心できた。 ・特色である国際交流に制約があったのが残念である。 <ol style="list-style-type: none"> （2）「令和3年度 学校経営計画」について <ul style="list-style-type: none"> ・特に修正することはない。来年度も不透明な状況であるが、教員と生徒でよく意思疎通し、学校生活を安定して継続させることを最優先に運営してもらいたい。 ・社会の課題について日常的に関心を持つとともに、SDGsの諸問題を解決する思考力、判断力、表現力をもつ高校生を育てていただきたい。 <ol style="list-style-type: none"> （3）その他について <ul style="list-style-type: none"> ・毎年の「学校教育自己診断」を実施し、1年間を振り返り検証していることは大変良い取り組みである。 ・施設・環境面での改善の要望が多く寄せられている。行政への要望も含め少しでも快適な学習環境をお願いしたい。

以上のようなご助言をいただき、「令和2年度 学校経営計画及び学校評価」、「令和3年度 学校経営計画」が承認された。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力の育成【授業力】</p>	<p>(1) 言語能力, 情報活用能力, 問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や, 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点に基づき育成する</p>	<p>(1) ア①「主体的な学び」 「キャリア・パスポート」を活用する ②「対話的な学び」 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している話を聞いたりすることで自らの考えを広めるとともに, 生徒自らが考えたことを, 意見交換したり, 議論したり, することで新たな考え方に気が付いたり, 自らの考えをより妥当なものとしたりする ③「深い学び」 課題の追究, 課題の解決を行う探究の過程に取り組む イ 「見方・考え方」 ①指導方法を工夫して必要な知識・技能を教授しながら, それに加えて, 生徒の思考を深めるために発言を促したり, 気付いていない視点を提示したりするなど, 学びに必要な指導の在り方を研究する ウ アクティブラーニングを取り入れ汎用的能力の育成を図る ①アクティブ・ラーニングでは教室内でのグループ・ディスカッション, ディベート, グループ・ワーク等も有効な方法であるので取り入れる エ ICT等を活用して学習活動を充実する ①総合 HR 研修委員会を中心に, 研修を実施し, 授業やクラス活動においても活用率を高める ②授業, その他で, プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を養う。 オ 学校教育自己診断等の結果を踏まえ, 年間実践の振り返りと課題探索を行う</p>	<p>●学びへの取組み □Asahi Cardの充実 □社会人講話や模擬授業を実施する □総合的な学習・探究の時間の活用計画を立てる □補習・講習など各種講習を充実させ, 学習の機会を増やす □特別授業 生徒の興味・関心を高め, 視野を広げることができるよう有意義な特別授業を実施する</p> <p>●進路指導に関する行事 進路に関する行事を充実させ, 選択肢を示しながら生徒が希望する進路実現に繋げていく □学力診断テスト, 模擬試験等を学年毎に2回以上実施 □進路に関する説明会及び講演会を4回以上実施 □大学見学会, 卒業生と懇談, 大学による模擬授業等を実施</p> <p>●進路結果 □国公立大学及び難関私立大学(関関同立・産近甲龍・関西/京都外大)の現役のべ合格者数令和元年度136名を180名とする</p> <p>●ICTの活用 □ICT等を教員が必要に応じて使えるようになる</p> <p>●学校教育自己診断, 授業アンケートの結果 □学校教育自己診断の結果 「授業はわかりやすい」についての肯定的回答, 令和元年度の59.0%を59%以上にする □授業アンケートの結果 「授業内容に, 興味・関心をもつことができた」についての肯定的回答, 令和元年80.5%を維持する 「授業を受け, 知識や技能が身についたと感じている」についての肯定的回答, 令和元年度83.7%を維持する □授業以外(家庭学習等)の学習時間を把握する</p>	<p>●学びへの取組み(○) □Asahi Cardには, 行事の振り返りのみならず, 自己の達成記録としも書きためている。各学年10枚程度と少しずつ増えており, 担任もコメントを記入するなど, フィードバックができた。 □社会人講和や模擬授業はコロナ禍ではあるが, 各学年3回~4回, 計11回実施できた。 □旭高校サンライズプログラムにのっとり1年生「知る」2年生「探る」3年生「決める」をキーワードに内容の充実を図るとともに令和4年度からの探究の時間を意識して社会人講和の内容などでもSDGsを扱った。 □今年度は夏休みが授業に充てられたため講習は少なかったが, 土曜日や放課後を利用して3年生の国語・英語・社会に加え, 物理, 数学も講習を実施し, 今年度は講習への参加人数も例年の1.5倍程度増えたものもあった。 □特別授業についても国際理解(SDGs アクティビティ, 即興型ディベート, JICA訪問, 命の授業, 第2外国語レシテーションコンテストなど)や人権行事(車いすダンスと講和)など実施することができた。</p> <p>●進路指導に関する行事(○) □コロナの影響で外部の模試がすべて学校開催となったが受験の機会は一定提供できた。 スタディーサポート2回 外部模試(希望者のみも含む) 1年 2回, 2年1回, 3年5回</p> <p>●進路結果(○) □国公立大学および難関私立大学の現役の部合格者数 136名⇒241名</p> <p>●ICTの活用(○) □一斉休校の際にG Suiteを導入し, オンライン授業の必要に迫られたこともあり, PTを立ち上げ, タブレット等必要なものを購入し, 研修を行った。 夏休み前に全員が10分程度の動画教材を作成する研修を実施したことが, その後臨時休校になった時の課題や動画の配信で役に立った。 令和3年度にはGIGAスクール構想に向けさらに研修を実施する予定である。</p> <p>●学校教育自己診断, 授業アンケートの結果(○) □学校教育自己診断の結果 「授業はわかりやすい」についての肯定的回答 令和元年度の59.0%⇒66.6% □授業アンケートの結果 「授業内容に, 興味・関心をもつことができた」についての肯定的回答 令和元年80.5%⇒81.7% 「授業を受け, 知識や技能が身についたと感じている」についての肯定的回答 令和元年度83.7%⇒85.6% □授業以外(家庭学習等)の学習時間を把握する 平日30分以下 35.7% 2時間以上 25.6% 休日30分以下 35.7% 2時間以上 38.2% 塾の利用 していない 68.8%</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 豊かな心・社会人基礎力の育成【自律・自己実現】</p>	<p>(1) 学校の教育活動全体を通じて、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、集団の規範を遵守し、多様な価値観を認めながら、他者と協調して活動することのできる規範意識を育む</p>	<p>(1) ア 集団活動の機会と環境を提供し、積極的に取り組むことで他者と望ましい人間関係を構築できる人間性を育む ⇒「協調友愛(校訓)」</p> <p>① 体育祭、文化祭等の学校行事の充実</p> <p>イ 国際交流、海外語学研修や留学生の受け入れ等に取り組み、国際感覚を醸成するとともに日本文化への理解を深める</p> <p>① 国際理解教育の実践、国際交流の充実に取り組み、英語力の向上を図る</p> <p>② 語学研修や海外修学旅行にあたり、日本文化について調べる</p> <p>ウ 自分自身で考えて行動し、自らを律することのできる精神を醸成する。⇒「自主自律(校訓)」</p> <p>エ 学校における生活指導は学校全体で組織的かつ丁寧に行う</p> <p>① 指導方針の明確化を図り、全教職員一致して実践する</p> <p>② 頭髪や服装の乱れに注意し、不注意による遅刻をなくすよう継続して指導する。また、挨拶を励行し礼儀を身につけて、社会人としての規範意識や協調性を培う</p>	<p>●国際交流</p> <p>□ 姉妹校からの生徒の受入れ</p> <p>□ 留学生の受入れ</p> <p>□ 語学の暗唱大会やインターナショナルフェスティバル等への参加を推奨する</p> <p>●語学系取組み</p> <p>□ 英語4技能評価にかかる民間の資格・検定試験について従来からの英語検定を軸に取り組み</p> <p>□ 上記検定において英語検定準2級相当以上の合格者合計、令和元年度212名を220名にする</p> <p>●海外における研修等</p> <p>□ 海外語学研修の実施</p> <p>□ 修学旅行の事前事後指導</p> <p>●生徒指導関係</p> <p>□ 学期初めに生活指導方針の確認を行う</p> <p>□ 特別指導期間の設定</p> <p>□ 令和元年度2857件の遅刻を、2200件程度に減ずる</p>	<p>●国際交流(○)</p> <p>□ 姉妹校からの生徒の受入れは中止</p> <p>□ 留学生の受入れ</p> <p>12月にフランスから1名</p> <p>□ 語学の暗唱大会スピーチ大会は校内選考を実施し丁寧に指導</p> <p>□ Web交流実施</p> <p>姉妹校と韓国の高校とそれぞれWeb交流を実施。</p> <p>●語学系取組み(一)</p> <p>□ 英検は校内実施を見送った。校内実施については、万一臨時休校になった場合の受験会場や費用など検討を重ねた結果やむを得ないと判断した。外部受験を進めたが受験人数は大幅に減少した。(67名) [212名]</p> <p>●海外における研修等(一)</p> <p>□ 新型コロナの影響により計画はしていたが、海外語学研修の実施はできなかった。</p> <p>□ 修学旅行の事前事後指導</p> <p>新型コロナの影響により、海外への修学旅行は実施が不可能となり、台湾から急遽北海道に変更し10月中旬に実施</p> <p>●生徒指導関係(○)</p> <p>□ 生徒指導に関して毎朝正門での挨拶指導、頭髪指導を行い、学校教育自己診断でも「先生は協力して生徒指導に当たっている。」が72.7%、学校は、生活規律や学習指導などの基本的習慣の確立に力を入れている。」が73.2%であった</p> <p>□ 遅刻件数</p> <p>R元年度2857件⇒R2年度1458件</p> <p>校内の新型コロナ陽性者の影響で11月と1月にそれぞれ1週間休校措置を取ったため、単純に比較はできないが、前年度のほぼ半数となっているので指導の効果はあったと言える。毎朝の声掛け指導に加え、生徒自身が日常の大切さを痛感し遅刻をしないよう心掛けたと考える。</p>
--	---	--	---	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 豊かな心・社会人基礎力の育成【百律・自己実現】</p>	<p>(2) 安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動に結び付けるようにするとともに安全で安心な学校にする</p>	<p>(2)</p> <p>ア 心身の健康を図る</p> <p>①生徒の健康に留意する</p> <p>②学校生活を送り辛く感じている生徒への対応</p> <p>③学校休業日を設定する</p> <p>④部活動に係る活動方針に沿った活動、部活動休養日の実行</p> <p>イ 非常変災の対応について</p> <p>①場面設定をした避難訓練を実施する</p> <p>②防災及び災害時に必要な物品を整備する</p> <p>③非常変災時及びその前後の情報発信について検討する</p> <p>ウ 生徒がITに触れる機会が増大していることを踏まえ、ITの利活用により、そのメリットを享受して豊かに生活を送ることができるよう、情報モラルや情報セキュリティに関する知識を含め、ITリテラシーの向上を図る</p>	<p>●安心安全</p> <p>□保健室の環境整備</p> <p>□生徒支援(委員会)の充実</p> <p>□生徒理解研修の実施</p> <p>□生徒情報の共有</p> <p>□学校休業日を設定する</p> <p>●部活動</p> <p>□部活動に係る活動方針を策定してHP等で公表する</p> <p>□部毎に年間計画、月計画を立て、生徒、保護者と共有する</p> <p>□部活動加入率(3学年平均)、令和元年度69.7%を維持する。</p> <p>●非常変災の対応</p> <p>□想定を変え、課題をもって避難訓練を行う</p> <p>□備蓄品で本校に足りないものを計画的に揃える</p> <p>□ライドンスクール(緊急メール)のさらなる活用</p> <p>●ITリテラシーの向上</p> <p>□情報モラルに関する講習会を実施する</p> <p>□情報科の授業を中心に他の授業でもITリテラシーの向上を図る</p>	<p>●安心安全(○)</p> <p>□保健室の環境整備</p> <p>新型コロナ対応で第2保健室設営など早急に対応するとともに、必要物品の調達についても事務と協力しながら迅速に備えたことで、混乱や、保護者からの不安の声もなく学校生活を継続できた。</p> <p>□生徒支援(委員会)の充実</p> <p>毎週委員会を開き情報共有に努めるとともに、必要に応じてケース会議を開き支援体制を整えた。SCからのメッセージを伝える等して、昨年度より相談件数は減ったものの適切に対応することができ、状況により適切に専門機関を紹介したり、ケース会議を開いたり、生徒の支援の在り方をタイミングを逃さずに情報共有できた。</p> <p>□生徒理解研修の実施</p> <p>職員研修でLGBTや同和問題について学んだことで、生徒の接し方や背景知識を学ぶことで、生徒理解が進むと考える。</p> <p>□生徒情報の共有はできている。</p> <p>生徒情報は学年会と支援教育委員会で共有して、全体化の必要がある場合は、校内のWeb掲示や職員会議で周知し、遺漏なく情報共有ができた。</p> <p>□学校休業日は設定し、特別な事情を除いて生徒も教職員も心身を休めることができた。</p> <p>●部活動(△)</p> <p>□新型コロナのステージ毎の部活動のあり方については緊急メールや教員を通じて保護者や部員へは連絡を行った。しかしながら、HPでの公表には至らなかった</p> <p>□部毎に年間計画、月計画を立て、生徒、保護者との共有が100%できたとは言えない。</p> <p>□部活動加入率(3学年平均)、令和元年度69.7%⇒令和2年度57.9%</p> <p>新型コロナの影響で3年生が早く引退したことも影響している。</p> <p>●非常変災の対応(○)</p> <p>□地震を想定し、課題をもって避難訓練を行った。</p> <p>□備蓄品についてはPTA予算で毎年計画的に揃え、屋上の倉庫に保管している。消費期限の切れたものは事務室と保健部で把握をし、災害断水時の飲料水以外の用途として保管するなど、適切に処理を行った。</p> <p>□ライドンスクール(緊急メール)</p> <p>学校教育自己診断の保護者の回答</p> <p>「学校が家庭連絡を積極的におこなっている」</p> <p>令和2年度76.3%[66.3%]</p> <p>●ITリテラシーの向上(○)</p> <p>情報授業のみならず、国際理解教育などでもリテラシーの向上を図り、PPTを使った発表を行い、生徒が実際に活用する場面を設けた。</p>
--	---	--	---	--

<p>3 学校の特色づくりと組織力の向上【学校運営】</p>	<p>(1) 教育活動に関する教職員の共通理解を深め、「よりよい旭」に向けてチーム学校として、目標を持って邁進できる組織を構築する</p> <p>(2) 校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を増やす</p> <p>(3) 学校の特色の共通認識と広報活動の充実</p>	<p>(1) ア 将来構想委員会を発足し、短期及び中期の課題解決をめざす ①学校全体の課題を整理し、校内の各委員会に指示する ②国際関係学科として発展、深化を図る ③新学習指導要領に対応する</p> <p>イ 組織的な対応 ①運営会議、職員会議などを議論及び意見集約の場とする ②総合HR研修委員会の活動を拡充して総合的な探究の時間の方針を示す。また将来構想委員会と協力して教員研修を企画する ③学年の運営は、担任と副担任をあわせた学年団で行う ④学級の運営は、担任と副担任が協力して行う ⑤これまでの台湾修学旅行を検証し、内容を拡充する</p> <p>(2) ア ICTの活用 ①教職員間メールや掲示板を活用する ②事務的作業の簡略化を図る ③共有フォルダの利用</p> <p>イ これまでの制度等の見直し(再掲) ①学校休業日を設定する ②部活動に係る活動方針の策定 ③部活動休養日の実行</p> <p>(3) ア ホームページやパンフレットを充実する ①ホームページの更新 ②パンフレットの内容の検討</p> <p>イ オープンスクールの実施及び進学説明会への参加 ①府主催の進学フェアへの対応 ②オープンスクールの実施形態を検討する ③他団体主催の進学説明会への対応</p> <p>ウ 地域連携 ①地域コミュニティー等や近隣小中学校との連携を図る</p>	<p>●課題解決に向けて □将来構想委員会等の活動を把握し、リードする □校内の他の委員会との連携 □総合的な探究の時間の実施と深化 □教員研修の企画 年3回</p> <p>●組織的対応について □担任、副担任のさらなる連携を図る □修学旅行における新たな学校との交流、B&Sにおいて発展的に取り組む □連絡事項はメール等で行うことで、会議の時間短縮と使用ペーパーの削減を図る □業務の scrap and build を実施する □分掌や教科等でデータを共有し、作業の軽減を図る(再掲) □学校休業日を設定する □部活動に係る活動方針について一年が経ち、改定の有無を検討する □部毎に年間計画、月計画を立て、生徒、保護者と共有する</p> <p>●学校の広報等 □進学フェアではプレゼン形式であるが、学校の理解度をあげ、国際文化科の浸透を図る □HPの更なる充実を図り、今年度も更新を月平均3回以上とする □オープンスクールでは持続可能な方法を模索する □進学説明会等は土、日、休日に行われることが多い中で、教職員の負担減を検討する</p> <p>●地域連携 □旭区役所と情報共有し、地域社会に貢献する □旭陽中学校は出前授業や高校訪問に対応 □高殿小学校は理科実験教室の実施や児童会活動への協力</p>	<p>●課題解決に向けて(○) □将来構想委員会等で今後の旭高校の取組(新カリ、国際文化、探究の時間など)や懸案事項を有効に協議することができた。 □校内の委員会では、カリキュラム編成等においても、俯瞰した意見の集約を行う委員会と各教科の代表の委員会などが連携をして意見を集約することができた。 □総合的な探究の時間については首席が組織をけん引し新カリに向けて原案を作成した。 □教員研修の企画 年7回 人権研修 (LGBT, 同和) 個人情報の取り扱いについて 探究の時間を担当するにあたっての基礎講座 オンライン授業研修3回</p> <p>●組織的対応について(△) □学年行事に副担任も参加するなど連携が見られた □修学旅行については急遽北海道への変更し、内容を深めることはできなかったが、迅速に変更案を作成し、無事に感染対策を行い実施ができた。 □連絡事項はメール等とWeb掲示板を多用し、会議の頻度と時間短縮、さらにペーパーの削減もある程度できた。 □業務の scrap and build については、新型コロナの影響で予定された行事の見直しや延期など何度も練り直しの必要に迫られ、結果として本来の業務の見直しにまで至らなかった。</p> <p>□分掌や教科等でデータは一定共有されているがさらに工夫する余地はあると考えている。 □働き方については、月曜日を一斉退勤日としたが、徹底については今後の課題。 □部活動についても活動時間のスケジュール管理は十分できているとはいえない。</p> <p>●学校の広報等(○) □HPの更新は校長ブログだけでも月2回更新をし、それ以外の取組みや連絡についても平均すると月1回以上は更新をした。 □オープンスクールは、新型コロナ感染予防対策を講じる必要があったため大幅に入場可能人数を制限し、これまでと形態を変更したことで教職員の負担は軽減された。3回実施の予定が2回の実施となったが、ホームページ上に質問コーナーを設け、普段の放課後も申し出があった場合には見学可能にするなどして対応ができたと考える。 □国際文化科については進学フェアも中止となったが、パンフレットを刷新し、ウェブでも中学生に学校の取組みがわかるような構成にし広報を行った。地区の説明会にも実施された説明会には出向き、新型コロナ感染対策を講じたうえで、学校の取組みを説明した。再編整備課と協働で国際文化科のパンフレットを作成した。 □HPについては、中学生向けのメッセージや学校紹介を充実させた。携帯でホームページを閲覧する人が多いことを受け、画面を携帯仕様で年度末には変更し、見やすくなった。 □地区の進学説明会等は今年度は中止やWeb開催になったものも多かったが、要望があった説明会には出席をし、説明を行った。</p> <p>●地域連携(一) ※新型コロナの影響により密をさけ、ソーシャルディスタンスを保つという観点から取り組みが制限され実施できないものが多かった。 □旭区役所とは生徒を介しての連携は今年度は実施できなかった。 □旭陽中学校への出前授業は本校の英語科教員とNETが行い好評であった。 □高殿小学校とは生徒を介しての連携は行うことができなかった。</p>
--------------------------------	--	---	---	--